

報道関係者 各位

平成 30 年 9 月 21 日

【照会先】 保険局調査課

課長 山内 孝一郎 (内線 : 3291)

数理企画官 仲津留 隆 (内線 : 3293)

担当係 医療機関医療費係 (内線 : 3298)

電話 : 03-5253-1111 (代表)

03-3595-2579 (直通)

## 「平成 29 年度 調剤医療費 (電算処理分) の動向」を公表します

厚生労働省では、毎月、調剤医療費の動向及び薬剤の使用状況等を迅速に把握するために、電算処理分のレセプトを集計し、「調剤医療費 (電算処理分) の動向」として公表しています。

このたび、平成 29 年度の集計結果がまとまりましたので公表します。

### 【調査結果のポイント】

- 平成 29 年度の調剤医療費 (電算処理分に限る。以下同様。) は 7 兆 6,664 億円 (伸び率+3.1%) であり、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,187 円 (伸び率+1.9%) であった。  
その内訳は、技術料が 1 兆 9,122 億円 (伸び率+3.4%)、薬剤料が 5 兆 7,413 億円 (伸び率+2.9%)、特定保険医療材料料が 130 億円 (伸び率+1.6%) であり、薬剤料のうち、後発医薬品が 1 兆 92 億円 (伸び率+16.9%) であった。【表 1、表 2】
- 処方せん 1 枚当たりの調剤医療費を年齢階級別にみると、年齢とともに高くなり、75 歳以上では 11,173 円と、0 歳以上 5 歳未満の 3,275 円の約 3.41 倍であった。【表 3】
- 後発医薬品割合は、平成 29 年度末で数量ベース (新指標) が 73.0% (伸び幅+4.4%)、数量ベース (旧指標) が 50.2% (伸び幅+4.8%)、薬剤料ベースが 19.0% (伸び幅+3.0%)、後発医薬品調剤率が 70.8% (伸び幅+3.4%) であった。【表 4】
- 内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料の伸び率は+0.8%となっており、この伸び率を「処方せん 1 枚当たり薬剤種類数の伸び率」、「1 種類当たり投薬日数の伸び率」、「1 種類 1 日当たり薬剤料の伸び率」に分解すると、各々▲1.0%、+2.1%、▲0.4%であった。【表 5】
- 平成 29 年度の調剤医療費を処方せん発行元医療機関別にみると、医科では病院が 3 兆 1,372 億円 (伸び率+2.0%)、診療所が 4 兆 5,048 億円 (伸び率+3.8%) であり、平成 29 年度末の後発医薬品割合は、数量ベース (新指標) で、病院が 73.3% (伸び幅+4.3%)、診療所が 72.8% (伸び幅+4.4%) であった。また、後発医薬品割合 (数量ベース、新指標) を制度別でみた場合、最も高かったのは公費の 76.8% (伸び幅+3.4%)、もっとも低かったのが後期高齢者で 70.7% (伸び幅+4.3%) であった。【表 1 4、表 1 5】
- 平成 29 年度末の後発医薬品割合を、数量ベース (新指標) の算出対象となる医薬品について、薬効大分類別にみると、薬効大分類別の構成割合が最も大きい循環器官用薬は 74.1%、次いで大きい消化器官用薬は 83.6%であった。【表 1 6】

「平成 29 年度 調剤医療費 (電算処理分) の動向」は、厚生労働省のホームページにも掲載しています。

ホームページアドレス (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuhoken/database/>)